

10:32 さて、一行は、エルサレムに上る途中にあった。イエスは先頭に立って歩いて行かれた。弟子たちは驚き、また、あとについて行く者たちは恐れを覚えた。すると、イエスは再び十二弟子をそばに呼んで、ご自分に起ころうとしていることを、話し始められた。 10:33 「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは、人の子を死刑に定め、そして、異邦人に引き渡します。 10:34 すると彼らはあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺します。しかし、人の子は三日の後に、よみがえります。」 10:35 さて、ゼベダイのふたりの子、ヤコブとヨハネが、イエスのところに来て言った。「先生。私たちの頼み事をかなえていただきたいと思います。」 10:36 イエスは彼らに言われた。「何をしてほしいのですか。」 10:37 彼らは言った。「あなたの栄光の座で、ひとりを先生の右に、ひとりを左にすわらせてください。」 10:38 しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。あなたがたは、わたしの飲もうとする杯を飲み、わたしの受けようとするバプテスマを受けることができますか。」 10:39 彼らは「できます」と言った。イエスは言われた。「なるほどあなたがたは、わたしの飲む杯を飲み、わたしの受けるべきバプテスマを受けはします。 10:40 しかし、わたしの右と左にすわることは、わたしが許すことではありません。それに備えられた人々があるのです。」 10:41 十人の者がこのことを聞くと、ヤコブとヨハネのことで腹を立てた。 10:42 そこで、イエスは彼らと呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとおおり、異邦人の支配者と認められた者たちは彼らを支配し、また、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。 10:43 しかし、あなたがたの間では、そうでありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。 10:44 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、みなのももべになりなさい。 10:45 人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」 10:46 彼らはエリコに来た。イエスが、弟子たちや多くの群衆といっしょにエリコを出られると、テマイの子のバルテマイという盲人の物ごいが、道ばたにすわっていた。 10:47 ところが、ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください」と叫び始めた。 10:48 そこで、彼を黙らせようと、大ぜいでたしなめたが、彼はますます、「ダビデの子よ。私をあわれんでください」と叫び立てた。 10:49 すると、イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われた。そこで、彼らはその盲人を呼び、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたをお呼びになっている」と言った。 10:50 すると、盲人は上着を脱ぎ捨て、すぐ立ち上がって、イエスのところに来た。 10:51 そこでイエスは、さらにこう言われた。「わたしに何をしてほしいのか。」すると、盲人は言った。「先生。目が見えるようになることです。」 10:52 するとイエスは、彼に言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」すると、すぐさま彼は見えるようになり、イエスの行かれる所について行った。

## はじめに

すでにマルコの福音書の中で、イエスはご自身が死に、その後死からよみがえることを弟子たちに明言なさっています。(8 : 31、9 : 31)

けれども、その死と復活の目的はまだ明かしておられません。

今日の個所では、イエスがご自身の死と復活の目的を説明し始められます。

その説明は、旧約聖書の理解が前提となっています。

イエスはまた、イエスの本物の弟子として従うとは、へりくだり、犠牲を払って仕えることであるとも明かしておられます。(8:34, 9:35, 10:15, 31)

そのようにしてイエスについていくのでなければ、神の御国には入れないと、イエスは弟子たちに伝えられました。

イエスは、神の栄光があらわされる前に苦しまなければならないと弟子たちに語られましたが、そのような苦しみの人生にも祝福の約束があるのです。

これは、すべてのクリスチャンが悟るべき大切な教えです。

私たちクリスチャンは皆、何らかのかたちで苦しみます。それは、弟子の勲章です。

しかし、苦しみを通してさえも神は祝福を約束してくださいます。そして、最終的には天国にたどりつき、すべての苦しみから永遠に解放されるのです。

## テモテ第二 2 : 10-12

2:10 ですから、私は選ばれた人たちのために、すべてのことを耐え忍びます。それは、彼らもまたキリスト・イエスにある救いと、それとともに、とこしえの栄光を受けるようになるためです。2:11 次のことばは信頼すべきことばです。「もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。2:12 もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを否まれる。

今日の聖書箇所は 3 つに分けてお話しします。

1. イエスの死に関する預言 (32-34 節)
2. イエスが死なれる目的 (35-45 節)
3. イエスを信頼する信仰の力 (46-52 節)

### 1. イエスの死に関する預言 (32-34 節)

イエスは、最後の旅に出かけ、エルサレムに向かわれました。

群衆がイエスのあとをついていきます。

イエスは、人々の先頭を歩いておられました。当時、教師は一般的に人の先頭を歩きました。

ここで覚えておきたいのは、これが「過越し」の季節だったことです。

多くの人々が、各地からエルサレムに上ってくる時期です。

過越しは、ユダヤの祭のひとつで、皆できるだけその祭に参加しようとするものでした。

この旅路で、イエスは弟子たちを呼び寄せ、まもなく起こるであろうご自身の死と復活について弟子たちだけに語られました。

このとき、この重要な出来事についてイエスが弟子たちに警告しようとなさったのは三度目でした。

あと二回は、マルコ 8 : 31 とマルコ 9 : 31 に記されています。

聖書が何かを繰り返す場合、それは常に重要な内容です。

イエスが三度も繰り返されたのですから、それが大切なことだとわかります。また、弟子たちが頭では理解していても心で受け止められていないと、イエスが感じられたということでしょう。

この点について、考えましょう。

### 適用

聖書を読んだり、学んだりするとき、または今日のように礼拝に出席するとき、イエスは私たちひとりひとりの人生にとって何か大切なことを伝えようとしておられます。

私たちの信仰の成熟度は各々違います。まだクリスチャンでない人もいます。

神だけが、その心をご存知です。私にはわかりません。

聖霊は不思議な方法でひとりひとりに違ったかたちで真理を教えてくださいます。

そこで大切なのは、みことばを受け取れるように、聖霊によって私たちの心が整えられていることです。

ですから、礼拝に来る前、聖書を読んだり学んだりする前、イエスの教えを受け取れるように心を開いてくださいと、熱心に祈り求めなければなりません。

忙しい一週間を過ごして、今日も大急ぎで教会に来たという人もいるかもしれません。また、今朝はデボーションや祈りの時間をしっかり取れなかったという人もいるかもしれません。そういう人たちのために、今ここで少し祈りの時間を取りましょう。

私が祈った後、約 2 分間時間を取りますので、ひとりひとり心の中でお祈りください。

祈りは個人的なものです。神の聖霊がみことばである聖書から語ってくださるよという祈りは今朝の祈りにふさわしいものでしょう。

### 牧師の祈り

父なる神よ、今朝私たちは真摯な心で御前に来ました。

聖霊によって、私たちの心を変えてください。あなたが今、みことばをとおして私たちに伝えようとしておられることを敏感に察知できる者としてください。

今日ここに、伝道者や牧師、宣教の働きへと召されていると感じている人がいるのでしょうか。

神に仕えなさいという召しを受けるとき、そこには必ず困難があります。

神が新たな働き人を召されることを、悪魔は嫌います。

父なる神よ、どうか今日この場所で、他のどんな声よりも明確にあなたの御声を聞かせてください。

今日ここに、まだクリスチャンでない人もいます。

イエスはその人たちが信仰を持って、本物の弟子としてイエスについていくように招いておられます。けれども、イエスに人生を明け渡してついていくことに葛藤があるのかもしれませんが。

父なる神よ、どうか、今朝その人たちがイエスに愛されていることを実感できるように助けてください。そして、正しい選択をするのをイエスが待っていてくださると知ることができるように助けてください。願わくば、今日そうなりますように。

父なる神よ、今から2分間、静まって祈り、内なるあなたの御声にゆだねたいと思います。

では、マルコ 10：32-34 の学びに戻しましょう。

32-34 節で、イエスのご自身の死と復活について弟子たちに語られました。このように語られるのはこれで三度目です。

では、実際どのようなことを弟子たちに伝えられたのでしょうか。

a) イエスのご自身を「人の子」とおっしゃった。

イエス・キリストの呼称はたくさんありますが、これは、イエスご自身が付けられた呼び名のようです。これは、マタイの福音書でもっとも頻りに登場します。

その理由は、マタイの福音書がユダヤ人のために書かれたものだからです。「人の子」という呼び名は、旧約聖書に由来する救い主を指す呼称です。

詩篇 80:17 あなたの右の手の人の上に、御手が、ご自分のため強くされた人の子の上に、御手がありますように。

エゼキエル書には、「人の子」という表現が 90 回以上も使われており、そのすべてが、預言者自身を指すもので、彼の預言の使命を示しています。

元来のエゼキエルと、神によって変えられたエゼキエルを対照的にあらわしています。

これは、エゼキエルの使命を彼自身の働きではなく、神の働きとするためです。

エゼキエルは、その使命の大きさにくじけそうになりましたが、その働きはエゼキエル自身のものではなく、神の働きであることを改めて教えられました。

神の働きを続ける力は、神が与えてくださるのです。

イエスが喜んで「人の子」という呼び名をご自身に付けられたのは、まさにそういう理由です。

イエスは正真正銘の人間であり、正真正銘の神であられました。

この会話が交わされたとき、イエスは最後の使命に乗り出そうとなさっていました。

人間イエスは弟子たちと同じく恐怖を感じていても、神イエスは、神が人間であるがゆえの弱さを克服させてくださると知り、自らの神としての性質に頼って使命をまっとうされました。

**適用**

ここには、すべてのクリスチャンにあてはまる大切な教えが含まれています。

人はクリスチャンになると、神の聖霊がその心といのちに与えられます。

そのいのちには、ふたつの側面が生まれます。

人間のいのちと神のいのちです。

私たちが人間であることは変わらないので、失敗や感情など、人間として生きる上での煩雑さは常に付きまといまいます。

一方、もうひとつのいのちがそこに存在するようになります。それは、私たちを力づけ、クリスチャンとして生き抜けるよう私たちを整えてくれる聖霊のいのちです。

聖霊は、私たちのうちに聖霊の実を生み出してくださいませ。

これが、「御霊の実」です。

ガラテヤ 5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

聖霊なしにクリスチャンとして生きることはできません。

ですから、日々聖霊の助けと励ましが必要であることを認め、神の栄光のために私たちをとおして働いていただかなければなりません。

くじけそうになっても、そんなときこそ聖霊を信頼して頼ることを神は望んでおられます。

昨年夏、日本のある宣教師が私を励まそうと聖書のみことばを送ってくれました。

それはちょうど、私が神からいただく必要のあるものでした。

ミカ書 5:4 彼は立って、【主】の力と、彼の神、【主】の御名の威光によって群れを飼い、…

神は、このみことばをとおしてはっきりと語ってくださいました。私はもう 63 歳ですが、主の力によって OIC の群れを養うことができるのだと気づかされました。

自力ではできません。けれども、主の力に頼るなら、できます。

神は私にしてくださったのと同じように、皆さんにも働くことがおできになります。

ですから、元気を出してください。神のみこころをおこなうために、神は力を与えてくださいます。

最後に、イエスは、ご自身が旧約聖書で約束された救い主であると弟子たちに告げられました。そして、主なる神の力によってご自身の使命をまっとうされることも教えられました。

**b) イエスは、ご自身が死なれる前に裁判にかけられると弟子たちに示された。**

この預言を理解するのは大切です。

イエスは、殺し屋に殺されかねない状況でした。

ユダヤ人の宗教指導者たちは、お金で人を雇ってイエスを殺せば、イエスとその弟子たちの問題も一気に終わらせることができると考えたかもしれません。

33 節に登場する「定める」という単語は、法廷用語です。

イエスは、ご自身が死なれる前に何らかの裁判にかけられると、弟子たちに教えておられました。

また、ユダヤ人の弟子たちには、その過程に「異邦人」が関わるとも示されました。

これは、イエスが死刑に処される過程にローマ帝国の役人が関わることを指す預言の言葉でした。

**c) イエスは、ご自身の死なれる前にどのような扱いを受けるか弟子たちに示された。**

イエスは、ご自身があざけられ、むち打たれると、弟子たちにおっしゃいました。

このときに使用されるむちには、金属の破片が編み込んであります。

皮膚に傷をつけ、出血を促すことが目的です。

これは、残忍な刑罰でした。

イエスは、人からつばをかけられるとおっしゃいました。これもひどい扱いです。

これほど正確な預言は、神だけがおできになることです。

イエスは、正真正銘の人間であり、神でした。信じられないことですが、本当です。

**2. イエスが死なれる目的 (35-45 節)**

35-45 節で、イエスはご自身の死と復活の目的を弟子たちに教えておられます。

弟子たちはふたたび、別のことで気が散っていました。

「自分が一番」という思いに邪魔されて、イエスのことばを心に刻むことができません。

ヤコブとヨハネは、イエスにたっただけのお願いをしました。

ふたりは、イエスが天国に戻って栄光をお受けになるとき、それぞれをイエスの右と左に座らせてほしいと頼みました。

イエスが天国に戻られる前に非常な苦しみを受けられることを、弟子たちはまだ理解していませんでした。

そこで、イエスはすでに教えられたことを改めて弟子たちに思い起こさせようとなさいました。それは、神の栄光の前に苦しみがあるということです。ヤコブとヨハネは、苦しみもいとわないと言いました。イエスは、ふたりがご自身の苦しみと似た苦しみを経験するとおっしゃいました。しかし弟子たちは、イエスの苦しみとまったく同じ苦しみを経験することはありません。イエスは、人間の罪に対する神の御怒りを一身に受けられるのです。弟子たちがそのような経験をすることはありません。彼らはもちろん肉体的には苦しみを受けます。けれども、全世界の罪に対する神の罰を背負うイエスの苦しみと同じではありません。

ヤコブとヨハネは当時まだ若く、イエスがどのような苦しみに遭われるのかをちゃんと理解し切れていなかったのです。ふたりは、自らの罪深さもまだ悟っていなかったのでしょうか。そして、その罪に対する神の罰の必要性もわかっていなかったのでしょうか。彼らは、人間の罪のために動物がいけにえとしてささげられていた時代の人だったからです。神の御子イエス・キリストが、すべての人の罪のために一度だけささげられるいけにえになるうとは、彼らはまったく思いつきませんでした。

**ヨハネ 1:29** その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

イエスは、彼らが苦しむと約束なさいましたが、ふたりが天国で特等席に付けるとは約束されませんでした。それは、神のみがお決めになることです。そしてイエスは、ご自身の死の目的を弟子たちに語られます。そこでキーとなる箇所は、**45 節**です。

**10:45** 人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」

天国でどんな特権を得られるかということばかり弟子たちが考える一方で、イエスは、ご自身の苦しみの理由と人類のために仕えることに焦点を当てられました。

イエスは、人類に仕えるために、そして多くの人の「代価」としていのちを与えるために来られた、と明確に語られました。

「代価」という言葉の意味は、**レビ記 25 : 47-49** に示されています。

その意味は、人または物を捕えている相手に代金を支払って買い戻すために、人または物の代金を支払って救い出すことです。

世間では誘拐事件がときどき起こりますが、誘拐犯は、身代金（代価）を払えば人質を返すと約束してくることがあります。

弟子たちは、神殿でのいけにえとその意味は理解していたはずですが。

動物は、罪の赦しの値としていけにえにされました。

動物が人の代わりに死んだのです。

イエスは、ご自身がエルサレムに上られるのは、罪の罰から人々を解放するために支払われる「代価」となるためだと言っておられるのです。

つまり、次のように言えます。

- a) **ローマ 7:14** 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。

すべての人間は、売られて罪の下にある者として生まれます。

この世に生まれるすべてのたましいは、死刑宣告の下にあるのです。それは、罪の奴隷市場に並べられた人のようなものです。

エゼキエル 18:4 見よ。すべてのいのちはわたしのもの。父のいのちも、子のいのちもわたしのもの。罪を犯した者は、その者が死ぬ。

- b) イエス・キリストは、ご自身の死をもって、罪の奴隷市場から罪人を買戻される。  
これは、罪の及ぼす力から完全に解放されるということです。  
イエスは、ご自身の尊い血によって代価を払い、囚われ人を自由にしてくださいます。

ペテロ第一 1 : 18-19

1:18 ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、 1:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

### 3. イエスを信頼する信仰の力 (46-51 節)

46-51 節は、盲目の人がエルサレムへの途上で癒された話です。これは、エリコの近辺での出来事です。

その男性の名は、バルテマイと言いました。彼はいつも道端に座って物乞いをしていました。

その日、彼を無視することのできない人が通りました。

たいていの人は過越しの祭へ行く途上で、素通りです。

しかし、その日、盲目のバルテマイはお金で満足せず、お金では買えないものを求めました。

目が見えるようになりたいと願った彼は、イエスがダビデの子、救い主であると気づきました。

イエスなら目を癒してくださると信じ切っていたので、彼はイエスのあわれみを求めて叫び続けました。

人々はやめさせようとしたのですが、バルテマイはさらに大声で叫びました。

イエスは、この男性を連れてくるようにと命じられました。

そして、「わたしに何をしてほしいのか。」と率直に尋ねられました。バルテマイは、目が見えないので、見えるようになりたいと答えました。イエスが「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」とおっしゃると、すぐに彼の目は見えるようになり、イエスについていきました。

この話は、弟子たちの姿と対照的に描かれています。

盲目の人は、イエスに全幅の信頼を置き、信仰によって目を癒していただきました。

そして、本物の弟子になったことを、イエスについていくことで証明しました。

彼は、イエスがどういうお方かをいちやく悟りました。

#### 適用

イエスの弟子になるには、私たちもイエスに信仰を置く必要があります。

イエスが罪の奴隷市場から私たち自身を救うために来てくださったこと、そして、罪の罰と地獄から解放するために来てくださったことを信じなくてはなりません。

ありのままでイエスのもとに来て、イエスが必要であることを認め、イエスを信じる必要があります。

アーメン。